

もやもや病について

こじま脳神経外科・内科クリニック
236-0042 横浜市金沢区釜利谷東6-21-1
電話 045-791-3177

もやもや病

Q4、もやもや病のため脳出血を起こしましたが再出血の可能性はありますか

A4、もやもや病は脳室内出血を起こすことが多く40-50台の方で脳室内出血のときはまずもやもや病を疑ってMRAの検査を行います。典型的なもやもや病は両側の内頸動脈末端部の閉塞がある場合です。この場合の再出血率は16.7%(Arch Neurol 20,288-299,1969)と報告されています。片側であれば単純計算でも再出血率は8%に低下し、さらに正常側からの側副血行路が発達していれば出血率がさらに低下します。私の経験ではこれまで成人の出血の症例を13名ほど経験しています。年齢は30歳から60歳台で再出血の症例は1例のみです。出血の原因ですが1. 小梗塞巣に出血性梗塞を起こして出血する。2. もやもや血管に擬性脳動脈瘤が発生してこれが出血する。(脳卒中の外科 32,416-420,2004)

以下に写真を供覧して説明します。片側もやもや病(Neuro Med Chir 50,378-385,2010)

片側もやもや病が両側性になることは証明されていません。



もやもや病は成人の場合左のCTのように脳中心部(大脳基底核部)に脳出血(白く見える部分)を起こすことが多い。
出血の確認にはすぐ撮れるCTが有用です。



MRAの写真です。両側の中大脳動脈が閉塞していて血管が写っていません。
これが典型的なもやもや病です。

下に血管撮影を示します。MRAと同様に血管が写っていません。その代わりもやもやした血管が見えます。
下左が右頸動脈撮影です。
下右が左頸動脈撮影です。



